下松市工業用水道事業の紹介

○事業の主旨

下松市は笠戸湾という天然の良港に恵まれていたことにより，早くから貿易港として発展し，大正から昭和初期にかけて工場進出があり，臨海工業都市として発展してきた。

しかし本市には，大きな河川がないために，各企業とも工場用水の確保には大変な努力をされてきたが，自己水源の開発には限度があり，このため，早くからダム建設を主体とした水源開発が強く望まれていた。

そして昭和30年に県営土地改良事業の一環として「温見ダム」が完成し，灌漑用水の余剰水を工業用水として利用することが可能になり，昭和34年10月に給水を開始した。

○事業の経緯

下松市の工業用水事業は，昭和34年10月に日本石油精製㈱（現・新日本石油精製㈱）との間において，300,000 m^3／月の売水契約を締結し，原水供給を目的として配水管口径600 mmを布設し同月16日から給水を開始した。

この契約水量はその後工場施設の拡張等による使用水量の増加で，昭和38年10月から40,000 m^3／日となったが，その後，事業縮小に伴う見直しにより，平成15年４月からは12,000 m^3／日となっている。

一方，かねてから問題となっていた工業用水の水利権については，昭和40年に下松徳山連合土地改良区の理解と協力の下に灌漑用水の一部を転用する協定が締結され，正式に45,000 m^3／日（0.521 m^3／秒）が許可されることになった。

本市の工業用水の供給先は，発足以来日本石油精製㈱1社となっていたが，平成元年に東海岸通りに進出した山口武田アグロ㈱（現・住化アグロ製造㈱）と同年12月から2,000 m^3／日の供給契約を締結したので，現在の供給先は２社となっている。

○工業用水道施設の概要

本市工業用水道事業では御屋敷山浄水場敷地内にある工業用水調整池から給水区域までφ600 mmの配水管で供給を行っており，配水管総延長は約5.9kmとなっている。調整池は6,000 m^3の容量があり，1日当り45,000 m^3の処理が可能な除藻装置（マイクロストレーナー）を２基設置している。

また，ダム以外の水源として，浅井戸により20,000 m^3／日を取水できる「開作水源地」がある。

○ ユーザーの概要　（平成19年３月末現在）

業　種	給水件数	契約水量（m^3/日）
石油	1	12,000
化学	1	2,000

○事業の特徴

豊かな水源と水利権に恵まれ，渇水の不安が少なく安定供給が実現できている。

また，工業用水調整池と供給先との高低差を利用し，増圧ポンプなどを使わず，自然流下による供給を実現している。

○下松市水道局ホームページアドレス

http://www.kvision.ne.jp/~k-water/

○工業用水道給水区域図